

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・例年と比べて、利用者数が20%ほど増えている。当地に寄港する大型豪華客船が増えていることで、特に外国人観光客の利用者数が大幅に増加している。
	○	スーパー（役員）	お客様の様子	・当地を舞台とするアニメ映画の公開と桜の開花が重なり、観光客が大幅に増えている。当店の売上も、酒や菓子などの地元商材を中心に増加している。
	○	衣料品専門店（エリア担当）	販売量の動き	・これまで以上に来客数が回復しており、客単価も上昇傾向にある。1人当たりの買上点数も増加傾向にある。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・エアコンの販売が引き続き好調に推移している。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数が増加している。それに併せて新車の受注量も伸びている。
	○	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・円安や物価高の状況、国による経済対策などに変化はみられないものの、新年度を迎えたことで季節商材を中心に消費が増加している。タイヤの販売量も前年から10%の増加となっている。
	○	高級レストラン（スタッフ）	それ以外	・全体的に景気は上向き傾向にある。ただし、当地の景況感については、それほど好転しているわけではない。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・客からの問合せ件数が増えている。
	○	その他サービスの動向を把握できる者【フェリー】（従業員）	来客数の動き	・インバウンドを中心に、観光客の輸送量が例年と比べて若干増加している。旅客、車両共に増加している。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・コロナ禍が明けたことで、客の行動の選択肢が増えており、旅行やレジャーなどに出掛ける人も増えている。ただし、物価高の影響で実質賃金が増えていないこともあって、消費行動にはばらつきがみられる。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・4月初旬は、春休み期間中の学生がカラオケなどの遊興施設やコンビニを利用する姿をよく見掛けたものの、中旬以降は、若年層の買物客は減少した。月全体で見ると、平日の来客者は、前年並みの少なさであった。特に閉店した百貨店周辺は、以前は新入学商材を求める買物客でにぎわっていたが、今年は皆無に近い状態であった。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・3月まで居酒屋の送迎会が好調だったことから、4月の歓迎会需要を期待していたが、今一つであった。買物客についても、物価高の影響で期待していたような消費行動がみられず、停滞している。
	□	一般小売店【土産】（経営者）	お客様の様子	・売上は2023年比で114.2%、2022年比で241.2%、2021年比で599.4%、2020年比で1560%、コロナ禍前の2019年比で122.8%となっている。
	□	一般小売店【酒】（経営者）	お客様の様子	・客から物価上昇に対する不満の声を聞く機会が増えている。し好品である酒類の販売への逆風が強まっており、当店においては大変厳しい状況となっている。
	□	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・値上げの影響で、食品など、一部の商材の動きが鈍くなっているものの、それ以外の商材は良くも悪くも想定どおりの動きとなっている。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・春節を機にインバウンドが急増したこともあって、冬場の観光客数は多かったが、4月に入って観光客数が急激に減少している。それに伴って当店の売上も苦戦している。
□	スーパー（店長）	販売量の動き	・原価高騰の影響で商品単価が上昇している。来客数は前年並みであるが、販売点数が伸びてこない。	
□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数が前年並みで推移しているため、景気は変わらない。今後も同様の傾向が続くとみられる。	

□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・4月以降も所得が増えていない人が多いなか、更なる食品の値上げで客の動きが鈍くなっている。その一方で、セール品に対する客の反応が良くなっており、月全体の売上、来客数はいずれも前年並みの水準となった。
□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・買上点数も、客単価も引き続き前年を下回っており、客の生活防衛意識の高さがうかがえる。インバウンドが減っていることもマイナスである。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車について、受注可能な車種が増えているものの、新車登録台数に大きな変動がみられないことから、景気は変わっていない。
□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・売上の前年比をみると、3か月前と変動がみられない。
□	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・気温の変化が大きいこともあって、来客数が安定しない。健康食品の問題で悪いイメージが強まっていることもマイナスである。
□	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・3か月前と比べて、変化はみられない。
□	その他専門店 〔造花〕（店長）	お客様の様子	・売上は前年並みの水準で推移しているものの、前年は落ち込みのみられた年であり、景気が上向いているとはいえない。来客数が落ち込んでいるため、全体的に動きが悪くなっている。
□	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・例年4月はゴールデンウィーク期間以外の日の売上が余り良くないが、今年は例年よりも桜の開花が早かったことから、花見客の利用でランチの来客数が増加することを期待していた。しかしながら、桜の開花直後から急に気温が下がったため、期待していたほど予約が増えなかった。また、円安に伴う物価高の影響が深刻であり、オリーブ油の価格は数年前の2倍に上昇している。オリーブ油は料理に使うことで食後の軽さが増す効果があるが、そろそろ使用を制限することを検討している。食材業者からは、特に外国人客の利用が多いホテルへの納品が順調な一方で、地元客をメインターゲットとした高級飲食店への納品が減っていると聞く。
□	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数について、大きな変動もなく推移している。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・4月に入り、売上が急激に減少している。人事異動などの影響で企業の業務内容に変化が生じていることが理由とみられ、一段落つくまでは今の状態が続くことになる。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・春を迎えて、客の動きが上向いてくることを期待していたが、目立つような動きは特にみられなかった。ここ2か月、景気は横ばいで推移している。
□	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・春を迎えてしゅん工シーズンとなったが、住宅の着工数は引き続き低迷している。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・大半の客から、物価がどんどん上がっているため、景気が非常に悪いという話を聞く。
▲	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・最近の政局不安が消費に多大な影響を及ぼしている。
▲	スーパー（店長）	それ以外	・円安に伴う物価高の影響で景気はやや悪くなっている。
▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・前年は卵不足の影響で卵が集客につながっていたが、今年はそうした恩恵がなくなっている。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・売上を前年比で見ると、引き続き好調ではあるものの、商品単価が大きく上昇していることで、買上点数の落ち込み幅が拡大している。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・商品の価格が上がっていることで、客がより厳選して商品を購入するようになっている。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・実質賃金が増えておらず、むしろ減少傾向にあるため、景気はやや悪くなっている。

	▲	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・一時期回復基調にあった来客数が再び落ち込み始めており、盛り返しの動きがみられなくなってきた。例年であれば、客が夏物商材の先物を見に来る時期だが、今年は客からの相談が少ないことも気掛かりである。
	▲	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・中小企業の倒産が増加している。コロナ禍でのゼロゼロ融資の返済が始まっているなか、返済できないくらい仕事が回っていないことが要因とみられる。今後も倒産が増加傾向で推移することを懸念している。
	▲	スナック (経営者)	来客数の動き	・前月と比べて、客の動きがとでも悪くなっている。
	▲	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・国内客、外国人客のいずれも予約状況が良くない。物価高や社会不安が影響しているとみられる。ゴールデンウィーク期間中も含めて、例年ほどの勢いがみられない。
	▲	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・ゴールデンウィークが始まっているものの、月初めから予約数が伸び悩んでおり、想定をかなり下回った状態にある。
	▲	旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・冬の観光シーズンから春休みにかけての航空機利用は、観光や帰省などの需要にけん引され、好調に推移したが、観光の端境期となる4月に入ってから、人の動きが鈍くなっている。物価上昇の影響で旅行に対する消費マインドが低下しているとみられる。
	▲	旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・来客数が減少傾向にあり、旅行商品の単価上昇分だけでは売上を補えなくなっている。海外旅行の需要は増加しているものの、トータルで見ると、景気は下向きとなっている。
	▲	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・国内旅行については、前年とほぼ同様の動きとなっているが、海外旅行については、円安が一層進んでいることもあって、不調が続いている。法人の団体旅行の取扱が主体のため、インバウンドの増加による利益を享受できていないこともマイナスである。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・今年は雪解けが早く、4月の気温が例年よりも高かったため、タクシー利用が激減している。タクシー1台当たりの売上は前年並みであったが、前年5月の乗車料金の値上げと12月の迎車料金の導入で約20%の値上げを行っているため、利用者は20%ほど減少したことになる。ただし、前年秋から4月にかけて、乗務員が30人増えており、稼働台数が前年から25%増加しているため、会社の売上は20%ほどの増収となっている。
	▲	タクシー運転手	販売量の動き	・コロナ禍前と比較して8割程度の売上で推移している。観光客の入込はあるものの、タクシー利用に結び付いていないため、厳しい状況にある。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・3月までは前年並みの利用者数で推移していたが、4月に入り前年を下回っていることから、景気はやや悪くなっている。
	▲	通信会社 (企画担当)	競争相手の様子	・他社からの乗換え客について、量販店での獲得数が競合他社に圧倒されていることから、景気はやや悪くなっている。特に都市部でこうした傾向が顕著である。
	▲	美容室 (経営者)	来客数の動き	・支出について、客がかなりシビアになっており、以前と比べて来店周期が長くなっている。そのため、月間の来客数が減少しており、売上も減少している。
	▲	美容室 (経営者)	販売量の動き	・円安に伴う原材料価格高騰の影響で1年間で3回の値上げをした商品について、値上げのたびに購入者が減っている。
	×	*	*	*
企業 動向 関連	◎	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・4月の販売量は前年比プラス22%であった。1月の販売量は前年比マイナス1%であったため、3か月前と比べて、景気は良くなっている。

(北海道)	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・新年度がスタートしたなか、官民共、順調な受注状況となっており、既に新年度計画を達成できるだけの工事量を確保できつつある。3月の降雪で遅れていた雪解けが一気に進み、工事着手の準備が想定よりも速いペースで進んでいることもプラスである。
	○	輸送業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・トレーラー輸送の状況を見ると、農産品関連の在庫が減少しており、本州向けの生乳も伸び悩んでいるものの、紙パルプがまずまずの輸送量となっているほか、雑貨の一部にも動きが出ている。4月の輸送台数は前年から1割弱の減少となったが、4月からの輸送料金改定の効果もあって、収支は維持できている。ただし、今後、関連コストの上昇が見込まれるため、対策が必要になっている。
	○	広告代理店（従業員）	取引先の様子	・受注ペースについて、悪くない状況で推移している。
	○	司法書士	競争相手の様子	・同業者から、売買や相続などに伴う不動産登記の依頼が増えてきたとの話を聞くようになった。ただし、物価高騰が続くなか、報酬額を急激に上げることはできないため、売上の大幅な増加にはつながっていない。
	○	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・年度替わりのタイミングで、受注単価を引き上げることができたため、景気はやや良くなっている。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・労働者不足、建設資材の高騰などのマイナス要因はあるものの、安定した公共投資、底堅い民間投資があることから、国内の建設需要は好調に推移している。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して、受注量も販売量も大きく変わっていない。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・現状、建設業界において、設備設計や施工を行う会社が不足している。そのため、設計や施工の可能性が決まっており、新しい再開発案件があっても、順番待ちの状況となっている。こうした状況は3か月前と比べて変わっていない。
	□	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・国内移送について、雪解け後の工事再開に合わせて、建材類の荷動きが上向くことを期待していたが、期待ほどの量とはならず、目新しいスポット案件もみられなかった。輸出入貨物も依然として低調に推移しており、仕事不足の状況が続いている。
	□	通信業（営業担当）	それ以外	・観光業界については、インバウンド及び国内観光客の増加により、景況感が大きく回復しているものの、全体的にみると、原材料費や人件費の高騰に伴ってコストが上昇していることから、景況感に変化は感じられない。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・金融機関の調査によると、物価高に伴うコスト上昇のうち、50%以上を価格転嫁できた企業の割合は70%となっており、前年から10%の改善となっているが、75%以上を転嫁できたと回答している企業は40%にとどまっている。これらのことから、企業が収益確保に苦慮している様子がうかがえる。
	□	司法書士	取引先の様子	・今年は雪解けが早かったことから、不動産取引や建物建築の工事が例年よりも早くから始まっており、取引量がやや増えている。ただし、これは本来予定していた取引が前倒しされただけである。年間の取引量が増えるかどうかは、まだ見通しが立っていないため、景気が上向いているとはいえない状況にある。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・市場の動きは予測どおりとなっている。大きな変化はみられず、良くも悪くもない状況が続いている。ただし、新年度が始まっているにもかかわらず、ゴールデンウィーク後の現場の動きがなかなかみえてこないことは気掛かりである。
	▲	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・りんごの一般販売価格が落ち込んでいることから分かるように、前年産りんごの品質が悪すぎる。当社製品の出荷量も例年の5分の1以下となっている。

	▲	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・住宅着工棟数が依然として前年を下回っている。建設業の 倒産や廃業が増加していることもマイナスであり、景気はや や悪くなっている。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・どこの企業も人材不足感が強まっており、求人ニーズが引 き続き堅調に推移している。ただし、求人に応募してくる人 材のスキルが企業のニーズと合わないことが多く、企業では 採用に苦戦している。妥協して内定を出しても、辞退するこ とが多く、採用計画がスムーズに進んでいない状況にある。
	○	学校 [大学] (就職担当)	雇用形態の様子	・求人内容をみると、どこの業界も給与が増加傾向にある。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	周辺企業の様子	・W e b 媒体の活用や社員紹介採用などが増えていることか ら、求人掲載件数は前年から若干の減少傾向となっている。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・貨物、旅客運送、宿泊業、生活関連サービス業などがけん 引役となって、求人は前年並みの件数で推移している。採用 コストを抑えるため、より効果的なタイミングや様々な採用 手法を取り入れる事業所が増加している。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・観光客を日常的に見掛けるようになったこと、街中の人出 が増加していることなどから、経済は動いているとみられる ものの、円安や物価高などがマイナス要因となっている。景 気が上向いている実感は全くない。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求職者数の動き	・当地の主力業種である介護業界、建設業界において、求人 に掛ける予算がない、応募効果が得にくいといった理由か ら、掲載を控える傾向がみられる。
	□	職業安定所 (職 員)	求職者数の動き	・3月の有効求職者数は前年から4.2%の減少、新規求職者 数は前年から13.4%の減少となった。一方、新規求人数は 9.6%の増加となったが、前年からの反動が要因とみられ る。これらのことから、景気は変わらない。
	□	職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・当地における3月の有効求人倍率は0.89倍であり、3か 月前との比較では0.03ポイント下回った。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—